

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援/放課後等デイサービス Olinace桜木		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 4日		2025年 11月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 6日		2026年 1月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 22日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	脳科学理論をもとにした運動療育	<ul style="list-style-type: none"> 「動」と「静」のセットでメリハリを意識 「動」と「静」の組み合わせで脳と体が成長し集中力を身に付けます。脳と体は相互関係にあります。体を動かすと脳(前頭前野)が活性化し、集中するために必要な脳の領域が元気になります。「動」と「静」の活動を交互に繰り返すことにより、興奮を瞬時に抑制する力が高まります。動と静のメリハリで、より強い抑制力を育てるため、結果的に集中する力が身に付きやすくなります。 子どもが好きな運動と一緒に自信をつける。 ストーリーやイメージと運動がセットになっているハイハイをするだけでも「犬さんみたいに歩こう」など、イメージさせて体を動かすことで想像力を鍛えます。 	定期的な運動研修の実施やアレンジした運動プログラムの共有
2	子ども主体の学習環境	子どもが自分から勉強したいと思うように一人一人に学習課題を用意し、登所時に自分から行い、花丸を職員が付けることで自信に繋げている。	定期的な振り返りやその子に合わせた部分を修正していく。
3	他事業所との連携	<ul style="list-style-type: none"> 若葉区の関係する機関に挨拶に行き、子どもたちを地域で支援していく体制を構築している。 他事業所の行っている療育についてお互いに知識を高めあう。 	今後も他事業所と連携をしていき、お子様だけでなく、家族や周辺の事まで支援できるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎範囲が広く、利用したい児童がいるが送迎範囲外になっている時がある。	事業所がない地域のお子様の利用願いがあり、道路状況や周辺に事業所がない為、利用できない事がある。	従業員を増やして、送迎範囲を今後も検討していき、地域に寄り添った療育ができるようにしていく。
2	保護者の要望が学習支援が多いので、子どもが精神的に気持ちで負けている時がある	点数など気にせず、学ぶ事を楽しんでいると感じてもらえる課題や教材の準備、支援方法が必要と感じている。 結果として良い点数に結び付けば、成功体験から自信に繋がり、学校生活が楽しいと感じてもらえるような療育としていく。学校は学びの場。すべてのお子さんに、学習に触れていってもらえるような療育に取り組んでいく。	学力アップの場所ではなく、将来の為の目標をもって活動する場所であることを周知していく。 学校生活を送る為の補助的な場所と理解してもらうことも必要かもしれない。
3	出入りロススペースが十分に確保できず、保護者との会話をじっくりしづらいことがある	建物の構造上、立ち話がしにくいため。	事業所で電話や連絡帳を使い、より明確にお子様の活動を伝えられるようにしていく。